

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492000201	事業の開始年月日	平成25年8月1日	
		指定年月日	令和1年8月1日	
法人名	ニチイ学館			
事業所名	ニチイケアセンターごてん			
所在地	(〒254-0061) 神奈川県平塚市御殿2-19-9			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和2年2月7日	評価結果 市町村受理日	令和2年10月29日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔の花咲くマイホームを目指し家庭的な雰囲気大切にしながら認知症の方の暮らしをサポートしています。
 笑顔の絶えない暮らしを提供していかれるように日々ケアに努めています。
 H28年12月より医療連携加算を取得し、ご入居者様の健康管理を行っていただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年9月8日	評価機関 評価決定日	令和2年10月12日

※新型コロナウイルス感染予防の為、調査日を翌年度に延期しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事務所の概要】

この事業所は、JR東海道線平塚駅からバスで約10分、最寄りのバス停から徒歩5分程の所にあり、周辺は閑静な住宅地である。建物は鉄骨造りの3階建てで、2・3階部分がグループホームである。1階には、同じ法人が運営する小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、運営推進会議や避難訓練、ニチイ祭りやボランティア活動などは双方の事業所が合同開催し相互交流を深めている。

【理念の実践】

「わたしたちは、その人の思いを受け止め温かい心で寄り添ったケアを行います。そして、ご家族と地域のつながりを大切にし、みんなに愛されるホームにしていきたい」という理念は、入職時に職員に周知し各ユニットに掲示している。管理者は理念の実践において、様々な心身状況にある利用者へ「寄り添ったケア」を行うことに重点を置いている。職員は理念を認識し、利用者へ笑顔で寄り添ってきめ細かく声をかけて意思の疎通を図り、一人ひとりの思いや意向をくみ取ってケアを行っている。

【小規模多機能型居宅介護事業所との連携】

事業所のイベントなどを共同開催することにより、双方の利用者の交流が進んでいる。小規模多機能型居宅介護事業所の利用者が、通い慣れた建物内のグループホームに入居するケースが多い。入居当初から、顔見知りの仲間がおり、リロケーションダメージが少なく安心して暮らすことが出来る。

【家族と利用者の面談】

新型コロナ対策として、家族と利用者の面談は、リモートで行ったり、広い玄関スペースを活用して、短時間ではあるが、家族と利用者がソーシャルディスタンスをとって直接面談するよう取り計らっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ニチイケアセンターごてん
ユニット名	歩

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに理念を掲示し、スタッフ一人一人が実践に繋げるよう意識しながら業務にあたっている	ホームの理念は、ユニット内の目立つ場所に掲載し、職員が常に認識しその実践に努めている。管理者は、様々な状況にある利用者に寄り添ったケアを行うことに重点を置いている。新人職員については、理念や重点事項の実施について戸惑いが見られる場合には、その都度話し合っており、理念の周知と理解を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭やニチイ祭りなどを行い、地域の人との交流ができるようにしている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で納涼祭や秋のニチイ祭を開催している。近隣にチラシを配布し、近所の子供達や住民の来訪がある。ホームの理解を深めてもらう機会として、認知症ミニ講座を実施したり、見学を受け入れたり、個別の相談に応じている。社会福祉協議会のボランティアセンターを通じて、ハンドベル、マジック、ピアノ演奏等のボランティアの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ニチイ祭りなどの際に、認知症講座という形や、普段の施設見学にて地域の方への理解を図る機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族と施設の管理者が会議に参加し、会議で出た意見を他のスタッフと共有し、サービス向上へ繋げている。	運営推進会議は、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で年6回開催している。参加者は地域包括支援センター職員、利用者家族、土地のオーナーである。地区の町内会には、声をかけているが参加はない。会議では、事業所の活動報告等の後、参加者と意見や情報の交換を行っている。重度の方なども楽しめるイベントを希望する意見があり、実施項目や時期を検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月介護相談員に来ていただき、入居者様の楽しみや、不満などを聞いていただき、サービスの改善・向上へ繋げている。	平塚市の介護保険課に、外部評価の結果を持参した際に意見交換などを行っている。同課が派遣する介護相談員を受け入れ、利用者との話合いの後に意見を交換している。市主催の「地域医療連携について」の研修に管理者が参加している。「レクリエーションについて」や「感染症関連」などの研修の案内が来ているので、職員に参加を勧めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を業務ミーティングの際に行いスタッフ全員がしないよう意識しながら行っている。 フロアの入り口は外に階段があり転倒、転落の危険がある為施錠している。	管理者、計画作成担当者2名で構成する身体拘束適正化委員会を設置し、毎月のミーティングで適正な言葉遣いの検討や、身体拘束排除の研修などを行っている。職員全員に身体拘束等に関するチェックリストを配布して自己評価を行い、結果に問題のある場合には、個別に面談し注意している。1階の玄関は開放し、階段近くのユニット入口は、危険防止のため施錠しているが、訪問理美容の来訪やイベント時には開放している。	身体拘束適正化委員会において、ユニット入口の施錠について適正化の検討を行い、議事録に残すことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、職員一人一人が虐待に対する知識や意識を認識し、業務にあたっている。また、職員同士で注意しあえる環境を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどで学ぶ機会を作っている。 又、個々で必要性を感じた時は実際に活用し支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際不安な点疑問点についてお聞きし十分理解し、納得していただいたうえで契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	顧客満足度調査を毎年行い改善できるように努めている。	家族会を設置していないが、家族の訪問はいつでも歓迎し、イベント時には家族に案内を出して参加してもらっている。意向や要望、苦情などはその際に聞き取りをしている。把握した内容は申し送りノートに記載したり、ユニットリーダーに直接伝えたりして職員間で共有している。職員の入れ替わりの多い時期があり、顔と名前が一致しないという意見があったので、制服に刺繍で名前を入れ、自己紹介で顔と名前を一致してもらうよう周知徹底した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどでスタッフから出た意見は、スタッフ全員で共有し、反映可能なものに関しては実際に反映している。	管理者は、日々のサービスの現場でも、職員の話をお聴くようにし風通しの良い運営を心掛けている。職員は、毎月のミーティング等で、活発に意見や提案を述べている。外部研修の案内は閲覧し、希望があれば休暇の取得を調整し、参加出来るよう取り計らっている。介護・育児についての短時間勤務制度などは、非常勤職員を含めて対応しており、きめ細かい勤務シフトを作成し、手薄な時間帯がないようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスキルを把握し、適材適所に配属をしてやりがいを感じてもらおうようにしている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修があり、外部研修には積極的に参加できるよう開催情報を公開している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に参加している。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約やアセスメントの時点で本人の要望や不安などをお聞きし、他のスタッフと共有し、本人との関係作りをしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の時点で困っている事、不安に思っていること、要望などを伺ったうえでケアプランを作り、ご家族に説明し、安心を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の要望・ご家族の要望を伺い、必要な支援を見極めケアプランに組み入れ、ケアプランに沿ったケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれのペース、能力に応じ出来ることは共に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅での様子や施設での様子をご家族と共有しご家族にできることをやっていただくなど共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からのお付き合いのある友人など、馴染みのある方は入居後もいつでも面会に来れる時間や環境を作っている。場所についてはご家族に連れて行っていただいている。	利用者宛に来た郵便物や電話は、取り次いだり返事を出す際の支援をしている。現在は、新型コロナ対策で外出や訪問は自粛となっているが、家族が迎えに来て墓参りに行ったり、なじみの美容院に同行したり、家族と一緒に年末の温泉旅行に行く方もいる。知人や友人の来訪がある場合には、居室などに案内して、湯茶でもてなし歓談してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は入居者様のペースで生活ができるようにし、一人一人の個性などを考慮し食席などを決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人との契約が終了した後も大きな行事にはお声掛けし、お会いした時にはお話を伺うなどしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話から本人の希望を聞き取り意向に沿うよう努めている。困難な場合でも可能な範囲でご希望に添えるよう努力しています。	職員は、日頃から寄り添ったケアに重点を置き、利用者と思いの疎通を図って意向や希望を聞き取っている。発語が難しい方、職員に遠慮して希望を表出できない方には、声かけなどをしてその人の仕草や表情を見て思いや希望をくみ取っている。誕生日のケーキについて、近隣のケーキ屋に案内し、好みのものを選んでもらうこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際のアセスメントの段階で生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境について本人や家族から聞き出し、スタッフ間で共有し把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の家事をやっていただいたり自身で行えることは行っていただくことで現在の状況を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から本人の様子について話し、その中で必要な部分をスタッフ間で話し合い、介護計画への反映に努めている。	利用者・家族の希望やニーズを反映して介護計画を作成し、日常生活支援シートに実施上の要点を記載している。必要に応じて医師のアドバイスを取り入れている。計画作成担当者が、毎月開催されるカンファレンスで職員の意見や情報を把握してモニタリング表を作成し、担当者会議で出席者の意見をとりまとめて計画の見直しに繋げている。計画の見直しは6ヶ月毎で、状況に変化がある時は随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録やミーティングなどで出た内容をスタッフ間で話し合いプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の利用者の状況やニーズに対してその都度スタッフ間で話し合い状況に合わせた対応をするよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の状況により買い物に同行することができなくなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医にするか定期の往診医にするかは、ご本人・ご家族に決めていただいている。	従来のかかりつけ医を受診している方は3名で、受診は家族対応である。受診後は、家族から聞き取りを行い申し送りノートや業務日誌に記載して共有している。その他の利用者は協力医療機関の往診を月2回受けている。看護師が週1回来訪し、健康管理などを行っている。看護師とは、24時間オンコール体制になっている。訪問歯科医は週1回来訪し、希望者を診療している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回来られる訪問看護師に気付いたことや気になること、本人の状況を伝え、その上で診ていただき支持を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時は入院前の状況を細かく病院側へ伝え、的確な処置をしていただけるよう努めている。また、入院した際は面会のたびに本人の様子を伝えていただくなど情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の対応についてはご家族の要望を聞き、本人の状況に合わせて要望に沿った対応を行っている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を契約時に説明し同意を得ている。管理者は、看取りについて、家族が立ち会い利用者が自然なかたちで最後を迎えることを目指している。重度化が進んだ時点で、看護師の資格のある管理者が家族の意向を確認している。病状が重篤な場合は医師も同席している。家族の希望があれば、看取りを実施する。その際には、職員に今後の容態の変化に関する情報を伝達し研修を行っている。2019年度は1名の看取りを実施した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルがあり、ミーティングや研修で確認をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消防訓練などを用いて、災害時の対応方法を身につける機会を作り、その中でスタッフ一人一人が学ぶことができている。	防災訓練は、消防署に届け出て年2回実施している。日中の火災想定訓練や洪水を想定した垂直避難の訓練を行っている。リビングのテレビ、居室の家具類、厨房の食器棚等の固定や転倒防止策を施している。3月は新型コロナにより避難訓練は中止となったが、代わりにシミュレーション訓練を行った。災害備蓄は、リストを作成し3日分程度の飲料水・食料品等を回転管理している。コロナ対策としてマスク、消毒用アルコール、体温計等を備えている。	熱源として、各ユニットにカセットコンロとガスボンベを備え、年1回は、夜間想定訓練を行うことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、居室への入室や直接介助時の1つ1つの動作などに対してその都度声掛けを忘れないように心掛けて対応している。	利用者の人格尊重やプライバシー保護の研修を実施している。職員は、その人らしさを尊重し、重度化した方にはきめ細かく声かけをして意向を確認してケアを行っている。歩行可能な方は、一緒に食材や日用品を買いに行き、自分の意思で購入する品物を決めるように支援している。リビングで使用する日常生活上の記録類は、個人名を部屋番号で表示し書棚に収納している。その他の個人情報を含む書類は、事務室内の書棚に施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、何をすることに対しても必ず本人の意思を尊重し了解を得たうえで行動している。 又、本人の思いなどを聞き要望に沿ったケアをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活していただき、したいことなどの希望があればできる限り要望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを考慮し、季節や気温にあったものを用意するよう気を付けている。 月一回訪問理美容の方に来て頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みにそった食事を提供できるようにしている。希望をお聞きしメニューを作ったり作り方についてお話ししたりしている。 残存能力に合わせ片付けなど一緒に行うようにしている。	食事は、日曜、月曜、祝日は専門業者から、献立付きの食材提供を受け職員が調理して提供している。その他の日は、職員が利用者の希望を聞くなどしてメニューを考え、前日に食材を購入し調理して提供している。職員は、利用者の食事中は、介助や見守りに専念している。職員と一緒に後片付けをする方もいる。昨年9月の敬老会では、食材業者から寿司職人がボランティアで来訪し、にぎり寿司を振る舞って喜ばれた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量・水分摂取可能量を把握し食事の提供をしている。 食事・水分摂取量の記録をし月一回体重を測り記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行う。一人できない方はスタッフが介助している。昨年9月より口腔ケアに対しての目標もプランに取り入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い失敗を少なくするように支援をしその方にあった介助をしている。	トイレの清掃は毎日職員が行い、臭いもなく清潔である。排泄チェック表でパターンを把握し、表情や態度を見てさりげなく誘導し、日中はできるだけ自立排泄を支援している。立位をとることが難しい方は、2人介助を行うこともある。失敗時は、浴室脇のトイレに誘導し、シャワーで処置することもある。夜間は、利用者の状況に合わせ、定時巡回でトイレ誘導や介助、見守りなどを行っている。熟睡している方は、睡眠を優先している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認し、便秘傾向にある方は水分を多く取れるようにしているがそれでも出ないときは主治医に相談し指示をいただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は基本的には決まっているがご入居者様の意思を確認し柔軟に対応している。	入浴は原則1人週2回である。1日3名ほどで、時間帯は利用者の状況に合わせている。重度の方は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所の機械浴を使用している。浴槽の湯は1人ずつ交換し、衛生管理に配慮している。使用後は、浴室の清掃、乾燥、消毒を行っている。空調設備と床暖房で、ヒートショック対策が行われている。同性介助の希望には対応している。柚子湯や菖蒲湯などで季節感を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様の習慣に合わせて午睡をしてもらったり、体調などにより休んでいただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は1か所にまとめ、すぐに見ることができるようにしている。処方内容が変更になった場合はすぐに伝えて変更後の状況観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	植木の水やりや洗濯物畳みなどの役割を持っていただき張りのある生活が送れるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に協力していただき、可能な方は外出されている。	天候が良ければ、ベランダで外気浴や日光浴を行っている。新型コロナ発生以前は、車椅子の方にも対応して、事業所周辺を散歩していた。職員が利用者に付き添って、近隣のスーパーに食材や日用品などの買い物に行くこともあった。現在は、コロナ対策のため外出を自粛しているが、家族と一緒に、通い慣れた美容院に行ったり、墓参りや泊まりがけで温泉に行く方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預らせていただき、欲しいものがあればなるべく要望に添えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様に届いた手紙はすぐにお渡しをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は季節の飾りつけをし、季節感を出すようにしている。	共有部分は、全体に広々として清掃が行き届いている。年3回、専門業者が全館の清掃やワックスがけ等を行っている。フロアは、他のユニットや小規模多機能型居宅介護事業所の利用者が集まって、イベントを開催出来るほどの広さがある。共有フロアを囲んで居室、トイレ、浴室などが配置され、中央に厨房があって全体を見渡すことが出来る。厨房の正面がリビングスペースとなって調理中も職員の目が届いている。壁には、手作りのカレンダーや季節の飾りを掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に行き来できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時使い慣れた物や馴染みのものをお持ちいただくようお話ししている。	居室は、空調設備・照明器具・収納設備・防災カーテン、スライド式ハンガーが常備されている。ベッドは利用者が好みのもを持ち込んでいる。床に布団を敷いて休む方もいる。それぞれテレビ、馴染みの家具や小型の仏壇など配置し、壁に家族の写真を飾るなどして居心地良くしつらえている。清掃や衣類の整頓は職員が行い、日用品の補充も支援している。表札は、楕円形の板に名前を貼ったり、折り紙をつけて个性的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り自立した生活が送れるよう、行き過ぎたケアにならないよう心掛けている。		

事業所名	ニチイケアセンターごてん
ユニット名	陽

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに理念を掲示して、スタッフ一人一人が実践に繋げるように意識しながら業務にあたっている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の買い物に行く時に、近くのスーパーやドラッグストアに利用者と一緒にいき、地域の人との交流を図れる機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ニチイ祭りなどの時に、認知症講座という形や、普段の施設見学にて地域の人への理解を図る機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際に、利用者の家族と施設の管理者が会議に参加し、会議で出した意見を他のスタッフと共有し、サービス向上へ繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員に毎月来て頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務ミーティングなどを用いて、スタッフ全員に拘束などの研修を行い、スタッフ1人1人がしないように意識しながら取り組んでいる。 フロアの入り口に関しては、階段による転倒・転落防止の為施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、業務ミーティングで研修という形で学ぶ機会を作っている。 又、スタッフ1人1人が虐待を行わないように意識しながら利用者のケアを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどで、それらを学ぶ機会を作っている。 又、個々で必要性を感じた時は実際に活用し、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、不安な部分がないかを確認し、十分に理解して頂いた上で、納得を図り、契約を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から、利用者やご家族の意見を元にケアを行い、1つ1つ利用者の事を考えながら業務にあたっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどでスタッフから出た意見は、スタッフ全員で共有して、反映可能なものに関しては実際に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ1人1人の勤務可能日や、可能な時間を聞き、なるべく要望に沿ったシフトを元に1人1人に就業して頂いている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域で行う研修などがあつたときに、その研修に行かせて頂き、1人1人の能力アップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者が集まる研修などに行かせて頂き、個人のスキルアップや情報交換などの出来る機会を得て、その中でサービスの質の向上に繋がる取組みを行わせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約やアセスメントの時点で本人宅へ直接行き、本人の要望や不安などを聞いたうえで、他のスタッフとも共有して、本人との関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の時点で不安な事や、困っていることを伺い、要望などを伺った上でケアプランを作り、ご家族に説明して安心を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の要望・ご家族の要望を伺った上で、必要な支援を見極め、プランに組み入れ、そのプランに沿ったケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが行っていることを利用者の方にもやって頂いたり、利用者1人1人のペースを崩さないように生活して頂いたり「生活の場」ということを意識しながら業務にあたっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅での様子と施設での様子をご家族と共有し、この中でスタッフが出来ることをやり、ご家族に出来る事をやって頂くなどして、共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの付き合いのある友人などの馴染みの人には、本人が入居してもいつでも面会に来れるような時間や環境を作っている。 又、場所についてはご家族に連れて行って貰うようお願いしたり、近場であれば一緒に行くように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活の中で、利用者同士の関係を把握し、1人1人の得意・不得意を理解した上で、日々の家事を行って頂いたり、食席を考えるなどしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の契約が終了しても、ご家族との関係を断ち切らないように、施設の大きな行事などにご家族を招き、本人の様子などの情報交換を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から積極的に会話し関わっていくことで、話し易い雰囲気作りに努めています。 ご希望に添えない場合であっても、出来る限り意向に沿えるよう努力しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が入居される際に、アセスメントの時点で本人のこれまでの生活環境や暮らし方を聞き出し、その内容を他のスタッフと共有し、1人1人が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の中で、利用者の現状を知るために日々の家事等をやって頂くことで、1人1人の現状を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から本人の様子について話し、その中で必要な部分をスタッフ間で話し合い、介護計画への反映に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や、ミーティングなどで出た内容をスタッフ間で話し合い、本人のプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の利用者の状況や、ニーズに対してその都度スタッフ間で話し合い、その状況に適した対応を行うように、1人1人が心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の誕生日に、近くのケーキ屋に食べたいケーキなどを一緒に見に行き買いに行ったりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回、かかりつけ医による往診があり、本人及びご家族の希望を聞いたうえで診察して頂いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回来られる訪問看護師に、気づいたことや気になることなどの本人の状況を伝え、その上で診て頂き、指示のもと適した対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、入院前の状況を細かく病院側へ伝え、的確な処置をして頂けるよう努めている。又、入院した際は面会の度に本人の様子を伝えて頂けるなどの情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の対応については、ご家族の要望を聞き、本人の状況に合わせて、要望に沿った対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当については、実際に専門の人に来て頂き、スタッフ全員で学ぶ機会を作っている。又、急変や事故発生時の対応マニュアルをフロアに掲示し、1人1人が目を通すように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消防訓練などを用いて、災害時の対応方法を身につける機会を作り、その中でスタッフ1人1人が学ぶことが出来ている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、居室への入室や直接介助時の1つ1つの動作などに対して、その都度声掛けを忘れないように心掛けて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、何をするに対しても必ず本人の意思を尊重し、了解を得た上で行動している。又、本人の思いなどを聞き要望に沿ったケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活して頂き、したいことなどの希望があれば要望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を伺いつつも、季節感や気温に配慮し、アドバイスするように気を付けている。 月1回訪問理美容の方に来て頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者との会話の中で、1人1人の好みを伺いながら、メニューに取り入れられる様心掛けている。 下ごしらえや味付け、後片付けなどもスタッフと協力して取り組んで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事・水分の摂取可能量を把握した上で、食事の配膳を行っている。 又、29年の9月より栄養スクリーニングシートで栄養状態の管理をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア時に、その都度1人1人を洗面台へ誘導し、口腔ケアを行っている。自分で出来ない方はスタッフで毎回介助している。 又、30年9月より口腔ケアに対しての目標もプランに取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行いながら失敗が少なくなるようにスタッフ間で話し合い、支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認し、便秘傾向にある方には水分を促したりしている。それでも出ない時は主治医や訪問看護師に相談して、指示を頂いて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は基本的には決まっているが、ご入居者様の意思を確認して行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様の習慣に合わせて午睡をしてもらったり、就寝時間を変えたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は一ヶ所にまとめてあり、直ぐに見れるようにしている。又、処方内容が変更になった場合は直ぐに伝えて変更後の状況観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の出来る事・出来ないことを把握し、出来る事を積極的にして頂いたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により一緒に買い物に行ったり、散歩に行かれるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預らせて頂いて、欲しいものなどの希望があれば、なるべく要望に沿えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者様宛に来た郵便物は直ぐにお渡ししている。返事を書かれたときにはお預かりして投函している。 又、本人から家族への電話の要望があった場合はなるべく要望に沿えるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には季節の飾りつけを行い、季節感を出すように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に行き来出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に使い慣れた物や馴染みの物をお持ち頂くように話をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく自立した生活を送って頂くように、行き過ぎたケアにならないように心掛けている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンターごてん

作成日 令和3年10月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災訓練で最近夜間想定で行えていない	今年度の避難訓練で夜間想定を行う	夜間想定での計画書を作成する	2021/3/31
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。